

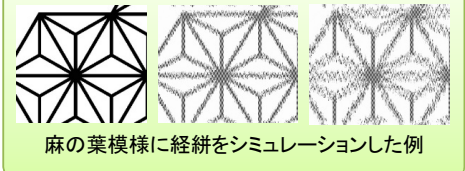
令和3(2021)年度経常研究 解し織のデザインと緋の効果に関する研究

担当部所 : 栃木県産業技術センター 繊維技術支援センター

背景

大正から昭和初期にかけて流行した、華やかな色使いと緋による独特な模様を特徴とした銘仙（着物）の柄は、最近ではレトロモダンな独特な印象が評価されている。足利地域では解し織の技法を活かし、洋装に対応するために生地を広幅化する取組などが進んでいる。

解し織における緋は、仮織した経糸に捺染後、本織により生地になる間に起きる経糸相互のずれによって生じるため、捺染した元の図案が変化し、独特の印象が生じる。このため柄に対する緋の程度と柄の印象の変化は、柄の形状や大きさにより異なるが、製織後に明らかとなるため、企画段階では企画側と製造側でイメージが共有できず、本織後のやり直しや、意図しない高評価のデザインが偶発的に発生するなどの課題がある。



研究目標と結果

研究目標

- 緋の違いによるデザインの変化を製織前に知るための見本を、デザイン資料を活用して作成する。
- 解し織によって生じる緋の効果を明らかにし、試織によりこれを確認する。

実施内容

(1) デザインの選択と調整

① 令和2年度に分類したデザイン資料から柄の大きさやモチーフから代表的なもの20柄を選択



4分類の中から選択（一例）

② テキスタイル用の柄として使用できる程度に以下の調整を実施

- ・色まとめ
- ・ゴミ取り
- ・輪郭修正
- ・柄の補完

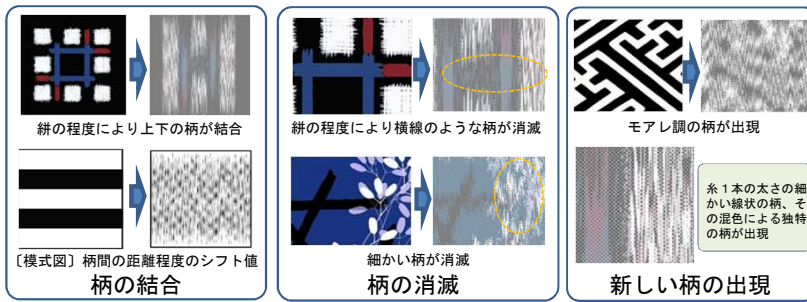
(2) 緋のシミュレーション①〔見本帳作製〕

緋のシミュレーションを、テキスタイルデザインソフト(4Dbox PLANS [トヨタビジュアルシステム製])を使用して実施。シミュレーションはシフト量※により4段階実施し、結果をプリントして見本帳を作製 ※シフト量（ピクセル）の設定値を最大とする乱数により上下にずれが発生



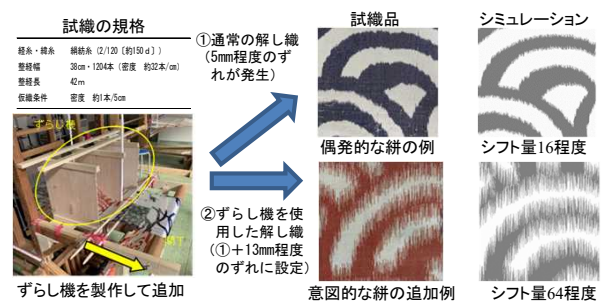
(3) 緋のシミュレーション②〔緋の効果〕

経緋の一般的な効果（柄の輪郭がたて方向ににじむようになる）以外のもの



(4) 試織と検証

改造した織機を使用して緋の程度を変えた解し織を試織



まとめ

- 解し織の緋の程度による効果の差を、事前に見比べることを可能とする見本帳を作製できた。
- 緋の効果について明らかにするとともに、試織によりシミュレーションの適応条件を確認した。

ご来場の皆様へ

問い合わせ先: 栃木県産業技術センター 繊維技術支援センター TEL 0284(21)2138

- 緋による新しいデザイン検討に取り組む際の効率化が図れます。
- 解し織に関する、御相談や共同研究等で支援が可能です。

